

### 1. 活動報告（事務局 記）

ー7月3日（土）エコアップ：

- ① 池ゾーンのイグサ、アサザの間引きと、オオカナダモ、ガマ草の駆除を徹底的に行いました
- ② 湿地帯のスゲ草の一部刈り取り、オオフサモの抜き取りでした。

草刈作業：

- ① 駐車場の草刈2／3以上しました。刈った草は乾燥後地域の会員で処分します。  
18名の参加でした。雨の中を大変ご苦労をかけました。

ー7月17日（土）【大人の観察会】たんぼの生き物の観察を西原リーダーの指導にて行いました。参加者は15名+児童3名でした。

その他余力時間で止水池と湿地帯のエコアップも行いました。

ー7月17日（土）10：30～14：00の間 「フジときららネットこどもエコクラブ」のスタッフ、児童50名（生物集めビンゴゲーム他）に当会から3人派遣し指導いたしました。エコクラブのみんなと一緒にいった焼き肉昼食会はとても楽しく有意義な活動となりました。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

ー 月 日

◎ 行事

ー7月27日（火）中国電力(株)須賀河内川草刈ボランティア活動

会から渡辺、金子、吉富、原田が草刈機参加予定

ー8月 1日（日）維持活動（特に草刈とエコアップ）

ー8月11日（水）厚東中学校生徒会11名+校長先生他先生がエコアップにボランティア参加されます

ー8月21日（土）観察会（川の生き物）

### 3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月はありません。

#### 4. 会員の声 「二俣瀬木田の古城跡探索」 part-1 (原田満洲夫、内藤武顕 記)

厚東にはかつて平安末期～室町中期に霜降城を拠点に厚東氏が長門から豊前にかけて、ある時は守護代や守護職として君臨し、其の栄華を誇ったと史実が残っている。したがって拠点であった霜降城ほか防護用の支城、出城が厚東の挽地城跡ほか長門地方には数多くが発掘されている。

しからばこの二俣瀬には全く歴史から記録が上がってこない。厚東川が中心部を北南にながれ東西を分断し自然の要塞となったのか？又は実存したが記録が全く残ってなかったか？興味を感じた二人、更に三人、さっそく仮称【ロマン古城探索会】なるものを平成21年正月立ち上げ、調査を開始した。山口県図書館、山口県古文書館、宇部市図書館各所を歴訪調査、木田の古老宅訪問、借りてきた古文書を紐解きようやく見つけ出した。大内時代後半から防長地区に封じ込められた毛利氏初期まで厚東全域から万倉(矢羽木、芦河内)、二俣瀬を領地とした吉見氏の存在が明らかになった。

そこで古城に戻るが、「齒染木の丸城や齒染丸の城」なる古城名が現れた、所在地は古い書籍で長門國厚狭郡木田村とあり、新しい書籍では厚狭郡二俣瀬村木田と間違いなく記載されている

さて木田でもその城跡はどこになるか？厚東川を渡って攻めてくる敵が見えて防御できる位置であることは、だれが考えても当時の時代としては考えられる。2～3それらしい場所に見当をつけ数度に亘って3人で時には4人で探索を行ったが確固たる証拠を見つけることは出来なかった。

何しろ約450年前？の時代に築城されて、毛利輝元の有力な家来であったが謀反の罪で家系は断絶その城も、砦に近い山城であったため取り壊されたとおもわれる。立派な石垣が残っているわけではなく、現在は木々に覆われ、建物の礎石があったであろう場所も？も土が堆積しとてもではないが数名の興味本位の会員では発見できるようなものではない。

・・・次回に続く

#### 5. 大人の観察会 「田んぼの生き物」

7月17日 土曜日 晴 参加者15+3名 (西原 一誠 記)

みんな子供に帰って網を持って、生き物探しです。フジときららネットのこどもエコクラブと合流した後も、たくさんの子供たちといろいろな場所で生き物を捕まえました。主流はやはり池や川の生き物でいろんなものを捕まえては歓声を上げていました。須賀河内川は増水していましたが、水に入っても良いよと言うと、最初は恐る恐る入っていた子も、慣れてくると次々と川に入り、泳いでいる子もいました。やはり、川での遊びは最近減多にしないので、一番人気でした。観察の植物は、主に田んぼのみで、動物は池や川も含めました。

<本日の観察結果>

**植物 (田んぼのみ、今年はイネは植えていません)**

アメリカセンダングサ、イボクサ、コナギ、セリ、イグサ、アシカキ、タカサブロウ、ナガバオモダカ、オオアブノメ (田んぼ一面、コナギが占有していました)

**動物 (主に水に棲む生き物)**

ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ヌマガエル、トノサマガエル、アメンボ、ミズカマキリ、マツモムシ、タイコウチ、コオイムシ、ハイイロゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、メダカ、ドジョウ、ドンコ、トンボのヤゴ (アカトンボ型、ギンヤンマ)、ヌマエビ、スジエビ、クサガメ

6. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) ( 管 哲郎 記)

(26) オオシオカラトンボ (トンボ科、シオカラトンボ属)

*Orthetrum melania* (Selys)

シオカラトンボの仲間ですが近頃は多く見られなくなりました。丘陵地や平地の湿地や池沼、水田、山道などではせせらぎの小さな水溜りなどの狭い空間を好み、雄は水辺近くに縄張りを持ちます。雌は羽化した後、一旦水辺を離れ山中の陽だまりや風のあまり当たらない場所の樹の枝などに隠れていることが多いようです。

成虫の出現はシオカラトンボよりおよそ1ヶ月ほど遅く、5月半ば頃より羽化を始めます、そのため姿を消すのもシオカラトンボよりやや遅い10月下旬頃になるようです。

大きさはシオカラトンボとあまり変わりませんが、♂の腹の青白い部分が多いので大きく見えるためにそう呼ばれるのかも知れません。ビオトープには道筋に水溜りや湿地も見られますのでよく探せば見つかります、しかし数は多くないのが気になります。休耕田が多いのでどこかに多産地があると思われるので、探してみてください。



オオシオカラトンボ♂



オオシオカラトンボ♀ 羽化直後



♀ (下) の産卵の安全を見守る♂ (上)



上:♂、下:♀ 交尾連結

## 7. 川上小学校よりお礼の手紙

拝啓、盛夏の候 益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。先日は宇部市地球温暖化対策ネットワーク総会にてお世話になりました。

特別なご配慮のもとメダカを研究させていただきありがとうございました。

本日で一学期の全課程が終了いたしました。理科では「メダカの育ち、誕生」を中心に学習してきました。5年生101人が観察し学習し驚きと感動をもって生命の大切さと大自然に対する畏敬の念を学んでくれたようです。男の子を中心に特に興味を持った子は、毎日のように理科室を訪れ世話をしていました。

画像や本でなく本物に出会うこの大切さを改めて認識しました。

その子たちがお礼の手紙をしたためました。お礼に報告ということでお便りをさせていたがきました。理科担当としてお礼を申し上げます。ありがとうございました。 敬具

7月20日 【里山ビオトープ二俣瀬をつくる会】様

川上小学校教務主任 三好保雄

※このほか5年生 田中基行君、中島美咲さん、山村紀史君、笠原蒼生君からお礼のお手紙と飼育をしているところの写真をいただきました。

## 8. 会よりの連絡事項 (事務局より)

創立以来入会されている方、新しく入会された方で、今年約13回の内まだ1回も活動に参加されない方に物申す。何のために【里山ビオトープ二俣瀬をつくる会】に入会されているのか不審に思う。会費を治めるだけではこのボランティア精神の意義があまりにもなさすぎるのではと特に思われます。

また活動にも大変労力を必要とするときと、ただ体力も使わず参加すれば良いという活動もあるが、その隔たりを考えずにいずれも参加してみたら如何かと思われてなりません。

通常2回/月のほか見学者の案内、他団体のボランティア活動の指導、上部団体への会合参加等々への呼び掛けにはぜひご協力を願いたい。今の時期維持管理作業が大変です。第一日曜日の維持管理作業よろしく参加をお願いします。

## 9. 編集後記

今年は、猛暑を通り越して酷暑となっていますね。皆さん、熱中症対策は万全ですか？昨年、妊婦だった私は、太ったら担当医師にと〜っても怒られるので、毎朝1時間通勤時に歩いていました。そのとき、市販の首に巻きつけるタイプの「ジェル状保冷剤」を装着して歩いたものです。これは、とても効果がありました。この夏の活動アイテムとしておススメですよ。私は、今年度に入って、まだ活動に参加していません。事務局からの連絡事項は耳が痛いです。もう少し、涼しくなったらベビーを連れて現れますので、どうぞ温かく迎えてくださいね。たくさんの方とお会いできると嬉しいです。

( 小田 政江 記 )